

県政だより

みんなの思いを
つなぐ



第007号
平成25年
4月14日 発行

議員活動報告

新潟県議会議員

小島義徳

もくじ

(1) 2月定例会を終えて

(3) 平成25年度の主な整備事業

(2) 平成25年度当初予算の概要

(4) 人口減少問題の現状

二月定例会を終えて

いじめや体罰の解決のため県も様々な取り組みを行っている。しかし、関係者や身近な人たちの間でも立場により考え方が多様であることが顕在化する。

個々を尊重する社会を大切にしてきたことが今になって自己ばかりを擁護する人間社会になってしまったということがある。

また、現在人口減少問題があらためて議論されている。いかにすれば地域を活性化して人々が暮らせる地域を維持していけるのか、多くの自治体がかかえる共通の課題をどう克服していけるのか。

県も人口問題対策会議を立ち上げ、人口減少社会の課題と対策を本格的に議論して行く。

平成二五年度一般会計の予算規模

一兆二、五八六億円

▼産業分野への投資

■再生エネルギーの活用 四、一三二百万円

■海洋エネルギー資源の開発促進 五百万円

■日本海横断パイプライン構想調査研究費 二百万円

■ロボットスーツ関連産業の創出 三二百万円

■小型モビリティ産業の育成 四百万円

■航空機産業参入推進 二八百万円

■公設試験研究機関における研究開発の促進 九六七百万円

▼人づくりへの投資

■少人数学級の推進 一六九百万円

■魅力ある公立学校、私立学校、大学づくり 一五九百万円

■子ども医療費助成 一、一四七百万円

■病児・病後児保育施設の設置・運営支援 一三三百万円

■新潟医療人育成センターの整備 五一〇百万円

■魚沼地域医療センターの整備 三〇百万円

■若手医師の海外留学研修の支援 八百万円

■看護職員養成の推進 一二六百万円

▼平成二五新成長プロジェクト

■新成長分野の設備投資の拡大

あらたな成長が期待される分野の設備投資にマイナス金利制度で支援する 二八・八億円

■新潟米付加価値向上

新潟米ブランド向上、米粉需要拡大の拠点施設の整備支援 三・六億円

■越後姫の需要拡大

新潟フードブランドの「越後姫」の生産体制強化を支援 一億円

■にいがた茶豆の需要拡大

えだまめの品質確保、生産体制強化に向けた栽培、収穫、選別等の機械化を支援 〇・四億円

■越後杉の需要拡大

即納体制の強化支援と越後杉補助金による越後杉ブランド材活用の促進 一・四億円

■新資源管理制度の導入促進

漁獲高の増大のため、えびかご漁におけるモデル実証を推進 〇・一億円

■食を活かした交流人口の拡大

農家レストラン、直売所等の支援(農商工、観光分野との連携による交流拡大) 〇・五億円

新成長プロジェクトの推進により見込まれる経済的効果(試算値)
(平成二三〜平成二五実施分)
約一、三五〇億円

◆投資事業のポイント

老朽化が進む橋梁やトンネル等の公共土木施設や、農業水利施設等の維持・修繕を適切に行い、県民の皆様が安全・安心に暮らすことのできる基盤をしっかりとする。また、適正な受発注の促進と労務単価の改善を図る。



太田川排水機場 ポンプ増設

現状6・2トの排水能力を移動式ポンプ1・5トを増設して太田川流域の洪水対策を強化する。これで排水能力は7・7トとなる。(国土交通省事業)



新潟福島豪雨時の太田川排水機場 (6.2t/s から 7.7t/s に排水能力アップ。H25 着手)

荻曾根川改修、月見橋改修工事

荻曾根川護岸改修と用地買収、月見橋の迂回仮橋設置後、月見橋本体工事着手。国の緊急経済対策により大きく前進

菅沢入口堤付近、県道改修工事

県道新潟五泉間瀬線、菅沢入口岩の沢工区、県道拡幅工事着手。狭い道路を拡幅

国道二九〇号歩道工事

国道二九〇号大蒲原小学校から牧集落までの歩道整備工事に予算。通学児童の安全確保

阿賀野川馬下橋 現況調査

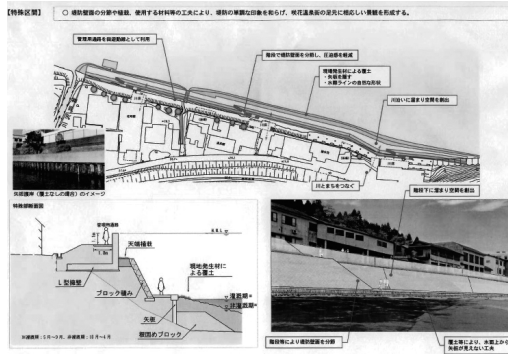
老朽化が進んでいる馬下橋の新橋建設に向けた、現況調査を実施

牧川改修工事

新潟福島豪雨時に決壊した牧川を、本年度本格改修工事着手

阿賀野川咲花温泉工区 築堤工事

咲花温泉街の機能に極力配慮した築堤工事が本年度本格工事着手



阿賀野川咲花温泉工区、流下能力を高め、防災能力を向上させる。咲花温泉の機能と景観に配慮した川づくりがはじまる。

滝谷川村松地内 改修工事

村松市街を流れる滝谷川改修、本年は城跡橋改修と上部護岸工事実施

本町交差点改良工事

本町通り(県道新津村松線)と県道白根安田線との交差点工事がいよいよ着手。信号機移動から道路工事

一本杉地内歩道整備

一本杉地内、県道五泉安田線、広域農道交差点付近の歩道整備。通学路の安全確保

砂防工事

大藏、新江川、尾白川の砂防工事を実施

千原地内歩道整備

県道新関橋田村松線、千原地内の歩道整備

寺本地内歩道整備

県道新関橋田村松線、寺本地内の歩道整備

備 県道中名沢刈羽線拡幅整備工事

県道中名沢刈羽線の拡幅整備が二五年度で全線完成予定

東南環状線整備事業

県の道路事業化に向け、県道や市道の条件整備を県市で調整する

善願橋補強改良

県道白根安田線の善願橋の補強整備工事

本年度完了。幅員確保で安全性向上

早出川河床掘削

早出川河床掘削

早出川河床掘削

能代川下大蒲原地内護岸改修

能代川下大蒲原地内護岸改修

能代川西四ツ屋地内他、床固め工事

能代川西四ツ屋地内他、床固め工事

その他

事業実施には地権者や地域の皆様のご理解とご協力が不可欠です。地域の課題や要望は引き続きご相談願います。

▼新潟県人口問題検討会議▲

外部有識者を含めた人口問題対策会議を開催し、人口減対策について検討する

第一回 新潟県人口問題検討会議が三月二十八日に開催された。会議の構成員は、議長に泉田知事、副議長に北島副知事、庁内メンバーは、知事政策局長、県民生活環境部長、福祉保健部長、産業労働観光部長、農林水産部長、教育長という主要メンバー。

外部有識者には、市町村を代表して大平悦子魚沼市長、神田敏郎阿賀町町長、紙谷智彦新潟大学副学長、小池由佳新潟県立大学人間生活学部准教授、渡邊明紀新潟経済同友会百年後委員会委員長、田巻清文一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター理事長の面々で構成されている。

昨年新潟経済同友会百年後委員会は、知事に百年後の新潟県人口を三〇〇万人を目指す提言書を提出している。人口増に導くためのプロセスとは、自然減や社会減といった現象の背景には、進学環境や経済環境による影響が強いが、男女が共に希望の持てる将来設計を描ける経済対策が不可欠。加えて男女の出会いの場が求められている。今後、更に世話焼きネットワークを広げ、登録者との出会いプロジェクトを計画して行く。

五泉市における人口割合

二〇三五年に市の生産年齢人口は、現在の七一％になると推定されている。約三割減ることになる。

五泉市 3区分人口割合	2005年	2015年	2025年	2035年
総人口数	100.0 %	92.0 %	82.4 %	72.2 %
年少人口割合 (%)	13.4 %	11.2 %	9.9 %	9.4 %
生産年齢人口割合 (%)	60.8 %	56.6 %	53.3 %	51.5 %
老年人口割合 (%)	25.8 %	32.2 %	36.8 %	39.1 %
内75歳以上人口割合 (%)	12.9 %	17.5 %	22.2 %	25.6 %
年少人口	7,611 人	5,877 人	4,626 人	3,881 人
生産年齢人口	34,647 人	29,658 人	25,034 人	21,165 人
老年人口	14,701 人	16,900 人	17,296 人	16,091 人
五泉市総人口数	56,959 人	52,435 人	46,956 人	41,137 人

参考資料 新潟県自治研究センター資料 国立社会保障・人口問題研究所データ参照

阿賀町における人口割合

二〇三五年に町の総人口は、現在の六六％になると推定されている。約三割強減ることになる。

阿賀町 3区分人口割合	2005年	2015年	2025年	2035年
総人口数	100.0 %	84.3 %	68.8 %	56.3 %
年少人口割合 (%)	10.9 %	9.8 %	9.1 %	9.2 %
生産年齢人口割合 (%)	50.0 %	46.7 %	44.7 %	43.8 %
老年人口割合 (%)	39.1 %	43.5 %	46.2 %	46.9 %
内75歳以上人口割合 (%)	20.3 %	28.2 %	30.6 %	33.1 %
年少人口	1,607 人	1,215 人	923 人	764 人
生産年齢人口	7,342 人	5,787 人	4,518 人	3,630 人
老年人口	5,750 人	5,390 人	4,673 人	3,884 人
阿賀町総人口数	14,699 人	12,392 人	10,114 人	8,278 人

参考資料 新潟県自治研究センター資料 国立社会保障・人口問題研究所データ参照

小島義徳事務所

〒959-1803 五泉市下条 84-1 ホームページ : <http://kojima-yoshinori.jp>
TEL 0250-47-4875 FAX 0250-47-4876 E-mail: kojima@prcoc.co.jp